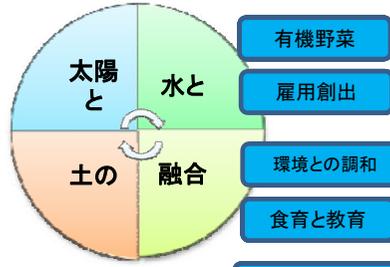


アグリカルチャーPJ(グランドイメージ)

提唱者 岡田プランニング、菅田プロジェクト、大石食農連携コーディネーター

農地を活用する新しい農業コンセプトの提案

【テーマ】都市近郊農業再生 儲かる6次産業化を目指す



安心安全な野菜を生産

- 有機野菜
- 雇用創出
- 環境との調和
- 食育と教育
- トレーサビリティ

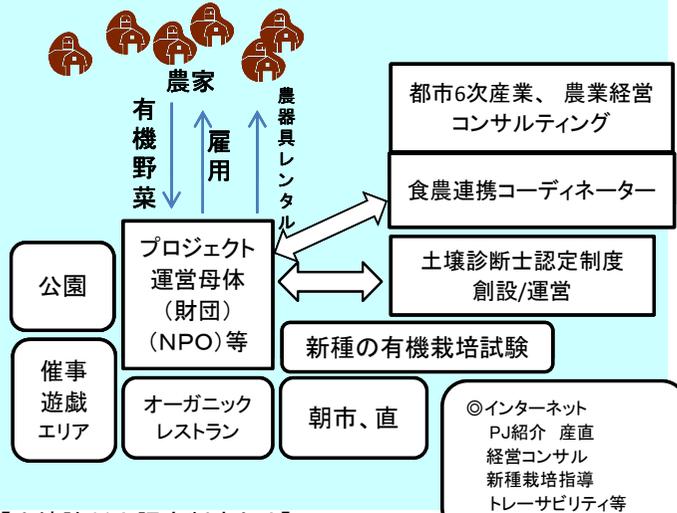
- ・市場付加価値の創出
- ・雇用確保
- ・農業所得向上(直売 規格外野菜の商品化)
- ・生産履歴を記録するトレーサビリティの実施

未来都市型農園

- ・子供たちへの温故知新的情操教育の創造と食育

*有機栽培履歴管理で農業経営にもメリット

【全体像】



【土壌診断士認定制度とは】

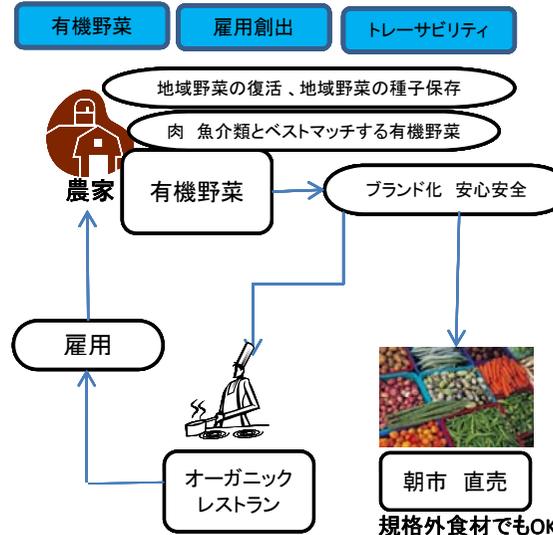
- ・現状土壌質を科学的に測定解析し希望する有機野菜栽培に最適な土壌づくりをアドバイスする専門知識と経験を有する資格士制度創設

【有機有機栽培試験場とは】

- ・付加価値が高い新種有機野菜の試験栽培するフィールド提供

【食農連携コーディネーター(FACO)とは】

- ・農業生産 加工 販売の連携をアドバイスする目的でH21創設され現在全国で114名が採録されている。



環境との調和

- 電気
- 水
- 土

ソーラーパネルの使用(レストラン/農家)
CO2を排出しない電気農器具の使用
井戸の開発と活用
堆肥プラント(オーガニックリサイクル)

食育と教育

- 催事施設エリア
- 公園

【江戸～昭和の遊びを学ぶ場】
自然の素材を活用した遊びや教室
(童謡、歳時記、昔話、ホテル狩り、竹細工遊び等)
公園内菜園 花壇体験

【農耕民族の原点に戻ろう】

古来より我が国は、稲作を筆頭とする農耕を主流とした生活を、形成し培われてきた。天と農地の恵みにに感謝し、物を大切にしリサイクルする崇高な理念を継がれていた。そして『食は人を良くする』の文字の通り、全ての教育と健康の原点も農業にあると言っても過言でない。しかるに、今日農業生産額は世界5位にもかかわらず、カロリーベースの食料自給率は40%代と低迷し、耕作放棄地の増大等、課題山積の中、都市型農業を儲かる意義ある産業として再生させることを提唱する。

【農作物輸出世界一オランダに学ぶ】

オランダは日本より耕地面積は少く人口密度も高い。しかし農作物輸出世界一である。マーケットが求める付加価値が高い野菜の生産に重点化するように農産物、加工品、サービスなどに関する農家、農業関連組織、教育機関などが連携している。

強いオランダ農業の秘訣はこの連携が常に市場の動きを早くキャッチし対応し、世界を相手に大量かつ高質の生産物を作り、国際競争力を養っているところにある。ここに都市近郊農業を産業として自立させ、儲かる農業のヒントがある。

ご意見、お問合わせ 食農連携コーディネーター(FACO)大石新市 電話090-8552-9766
e-mail ooishi@enshin-kg.jp FAX020-4624-8307
H P http://www.enshin-kg.jp/